

【授業科目】細胞診断学演習 I (総論) Practice of Diagnostic Cytology I (Generals)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開	
白石泰三、澤田浩秀、岩井宗男、牛丸一樹 金子千之、中村広基、馬場弘次、平澤浩	4年次前期	自由	3	135	演習	あり	卷末掲載	可	
授業概要 (内容と進め方)	授業概要/細胞検査士養成課程を目指す者にとって、臨床細胞学総論 I および II、臨床細胞学演習を学修した上で、細胞診断に関わる全般的知識を学ぶ。細胞診断を行う上で必要な検体処理法、染色法を始め、顕微鏡の種類と扱い方、免疫組織化学、FISH 法などについて教授する。さらに、細胞診断に関連する新たな診断技術についても紹介し、実社会において進化する医療技術を獲得できる能力を養う。 課題に対するフィードバック方法/レポート提出を課した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。								
実務経験に関する授業内容	経験豊富な病理医(細胞指導医)、細胞検査士が細胞検査士養成課程の学生に、細胞診断に必要な知識、技術について実務経験を交えて講義、実技指導を行う。								
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	①顕微鏡の種類、特徴、取り扱いなどを理解できる。 ②細胞判読に必要な病理組織学を理解できる。 ③検体採取法、検体処理法、染色法、標本作成の流れを理解できる。 ④細胞診におけるスクリーニング法、診断基準について理解できる。 ⑤試薬管理、安全対策、電子顕微鏡技術、セルブロック法、FISH 法などの手法を理解できる。								
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業に対する予習、復習を必ず行うこと。 本講義で学んだ知識は、標本の作成、検鏡などに必要であるため、実際に標本作成などのための実習を十分に行う必要がある。 1回の講義または実習につき、60分程度の予習および180分程度の復習を行うこと。 <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>								
授業計画	第1~2回 細胞診の目的・歴史・社会への役割、	白石							
	第3~4回 顕微鏡の種類と特徴、取り扱い法	澤田							
	第5~6回 細胞判読に必要な病理組織学①	白石							
	第7~8回 細胞判読に必要な病理組織学②	白石							
	第9~10回 検体採取法(穿刺吸引法、捺印法など)	平澤							
	第11~12回 検体処理法(固定、塗抹)、LBC法	岩井							
	第13~14回 染色法(パパニコロウ染色、ギムザ染色)	平澤							
	第15~16回 染色法(特殊染色、免疫染色)	岩井							
	第17~18回 細胞診標本作成の流れ①(検体受付、固定、塗抹)	牛丸							
	第19~20回 細胞診標本作成の流れ②(染色、顕鏡)	牛丸							
	第21~22回 細胞診スクリーニング法①	馬場							
	第23~24回 細胞診スクリーニング法②	澤田							
	第25~26回 細胞診の診断基準	白石							
	第27~28回 細胞診写真撮影法	中村							
	第29~30回 試薬管理、安全対策	平澤							
	第31~32回 細胞診と電子顕微鏡	金子							
	第33~34回 セルブロック法、細胞転写法、FISH法	金子							
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 授業態度 20% 学期末試験 80%								
教科書	『細胞診を学ぶ人のために 第6版』医学書院、 『スタンダード細胞診 第4版』医歯薬出版、 『細胞検査士細胞像試験問題集 第2版』医歯薬出版	参考書等	『基礎から学ぶ細胞診のすすめ方 第4版』近代出版、 『細胞診鑑別アトラス』医歯薬出版						
関係する他の科目	基礎生物学、解剖組織学、病理学、病理検査学、臨床細胞学総論 I、臨床細胞学総論 II の基礎知識を必要とするため、これらの科目を十分学修する必要がある。								
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 細胞検査士養成過程を選考した学生にとっての必須科目である。 細胞検査士認定試験に合格することを覚悟し、十分な学修を行うこと。 								